

鐘紡獨田工場社宅の婦人

今度鐘紡會社の債銀を回収せんとすべく、三月十日から実行してゐますが、三月十日も少くもつて一休壹折のやりくりかゝつてしまふか、子供の將來も考へて居ておいて、味増も酒も僅かばかり下げたつておいて、喉へてゆかぬか、それでは若御互労働者の腕かり並から一休鐘紡六千方所の大資本は唯か作つてしまふか、それでは若御互労働者の腕かり並から集まり上りたつて、それであり、作らぬ三割五分り高の配當は下り様とはせず、真先には従業員に僅かの積銀を下りるとは、日頃の温情主義は何処に行つたか、死ねか生きるか、その前に台所、婦人も立たぬはなす人、一旦會社に求めた要求は何

心直も貫く為めに男子の北前から婦人も腕押をしまふか、大坂淀川工場及京都工場労働者同組合に戦つてゐる兄弟を見殺しにしたため、獨田工場社宅の婦人も結束しやうであり、あつたか。

債銀回収減給に絶對反對しまふよう、南面不戦つてゐる兄弟を見殺しにしたため、

社會 民衆婦人同盟
日本労働總同盟婦人部

第三席

加藤 勤

今度鐘紡會社に於ける労働者當の向題に付てハ谷新南に見ルニ如何の成行カ職工如何ナル態度ニ出ルカト云フ事ヲ考テ居ル單ナル鐘紡ノ向題ナリ全日本ノ紡織界ノ向題ナリ資本家ト労働者ノ世間的重大ノ向題ナリ、資本家ト労働者ノ火蓋ヲ切ツタト思フ余社ニ於テ温情主義ヲ取ツテ居ルト言ヒマスカ職工邊ヲ偽購スルモノト思フ余社ハ八年前ニ日清紛ニテ働イタコトガアリマス過去出藤氏の眼カ結核スル時ニ帯一本午田也ニテ買取メタト云フ話ナシ其様ヲ金ニテ職工ノ給與ニ比較スルト等々人分ノ賃金ニ當リト云ハリ、贅澤を甚シイト云ハサルヲ得ナイ女工邊ハ産多イ籍階ノ處ニ働イテ健康ヲ害スル体ヲ志ラスレバ國へ取サズニ高砂病院ニ入院セシムルト云フ始末ヲ職工邊ハ度々感ノ毒ヲアル過日武藤氏カ退職ニ際シテ三百万円ヲツタ英金ハ唯カ働イテコレヲイタカ、皆止レ職工ノ金ヲアリマス労働者ハ人間ナラテ前年ト云フツタ通り賃金ヲボクメンドリテアル人間ノ待遇ヲ受ケテ居ラナイ労働者ハ資本家ノ原動力ナリ資本家ハ利益ヲ次山分配シテ労働者ハ單ニ原動力ニ過キナイ、労働者ハ人間ト見ナイテ機械トシカ見ラナイ是レ資本家邊ヨリノ見方ナリ、社ハ鐘紡職工諸君カ此際ニウナラバ全国ノ労働者ハ全カテ譽テ度振スルト思フ余、鐘紡ノ労働者諸君カ第一線ニテ此ノ上全国労働者ハ引續キ戦フト思フ余、大坂、神戶、淀川、工場ノ諸君ハ大ニ戦ツテ居ル、兄弟カ既ニ戦フニ獨田工場ニ於テ見テ居ルトハ人間階カ無ク過ナル、首ニナルカクワイノカ、最モ激イ